

鳴和中学校 1年6組学級通信

夢工房

特別号 2002.3.30発行

さようなら

1年6組

ありがとう

1年6組

もはや、担任の語ることなど何もない。

すでに、担任の手を離れたのだから。

我が子が、家を出て、独立するように……

ましてや、語り足りぬ、そして、育て足りぬのであるからには……

では、贈る言葉は、20世紀最大の科学者といえるであろう、アインシュタインの言葉から。

わたしには、特殊な才能はありません。

ただ、熱狂的な好奇心があるだけです。

あなたは、ほんとうにそう思っているんですか？

他人によって永遠の幸せが得られるなんて。

いくらその他人が、最愛の男だったとしても。

わたしは、自分自身の経験から、

男というものをよく知っています。

だって、わたしもそのひとりなんですから。

男に期待しすぎてはいけません。

このことは、わたしにはよくわかっています。

蝶はもぐらではない。

でも、そのことを残念がる蝶はいないだろう。

どうして、自分を責めるんですか？

他人がちゃんと必要なときに責めてくれるんだから、いいじゃないですか。

人間性について絶望してはいけません。

なぜなら、わたしたちは人間なのですから。